

南方地域戦没者 慰霊祭に参加して

滝坂 赤梨 政人

が
お
祀
り
し
て
あ
り
ま
す。

沖繩戦最後の地、摩文仁の丘に、山口県出身沖繩戦没者の慰霊顕彰のため、昭和四十一年、防長英霊の塔が建立されました。そして五十一年、南方諸地域での戦没者を合わせて、二四、四四七柱の御霊

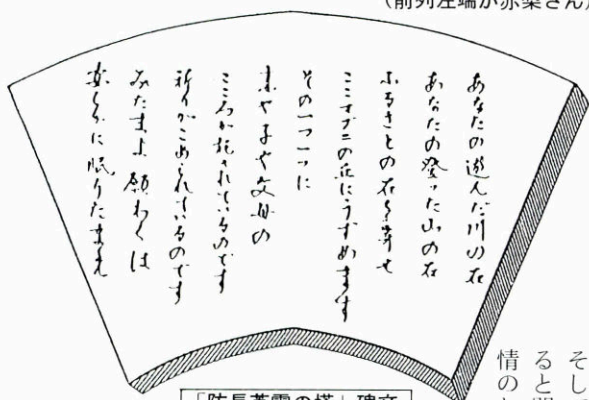
課長担当職員、県議会議長、遺族連盟会長その他の方々、沖繩からも知事さん以下多数の来賓がおいでになり、厳粛丁寧な慰霊の行事でした。戦

跡でのこととて特別の感激があり、ハンケチを握りしめない者はありませんでした。碑はすべて山口県産の石で造られ、碑文には、肉親の名を書いた小石を奉納しての慰霊祭です。遠い南の島まで行けなくても永い間背負って来た荷が少し軽くなったようにだと語り合いながら、県や市町村の配慮を感謝する私たちでした。

それにしても八十余日にわたり、住民を巻き添えにし、十八万八千名のいのちを犠牲にして、本土防衛の第一線となった凄惨奇烈な沖繩戦。今でも道路工事などの現場からは、いたましくも遺骨が、そして無数の不発弾がでくると聞いては、沖繩県民の感情のしこりがなおとけず、各種の事件につながる



山口県南方地域戦没者防長英霊の塔慰霊祭 昭和63年11月6日於防長英霊の塔 (前列左端が赤梨さん)

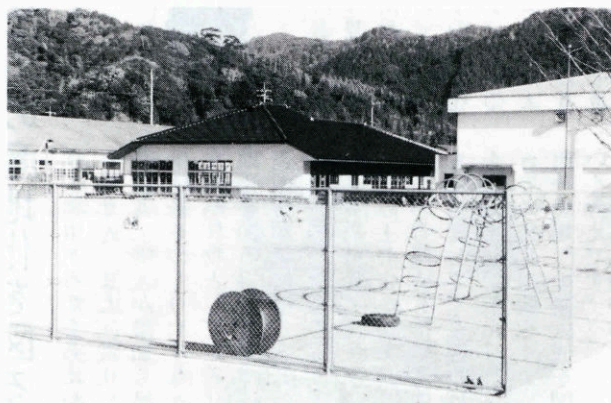


「防長英霊の塔」碑文

のは、あまりにも当り前のことと受けとめられるのでした。ひめゆりの塔、健児の塔に若い魂の叫びを聞き、海軍壕の底深く大田司令官官自決の、また摩文仁の丘の洞穴に牛島司令官自決の跡を弔へば、ただ涙。涙。あぁなんと平和とは尊いものでしょう。

宗頭幼稚園舎落成

— 1月9日より運営開始 —



▲ 改築なった新園舎と拡張整備されたグラウンド

香月設計事務所の設計監理、安藤建設(株)の施工で6月に始まった宗頭幼稚園舎の改

築工事が、当初の計画どおり12月20日に完成しました。建物は鉄骨木造づくり瓦葺平家建て約430㎡で、先に拡張整備されたグラウンド(家外運動場)の南側には、PTAの手造りで、町の間伐材を利用した立派な木造の総合遊具もできています。

現在使用している健康管理センターの仮園舎の設備は、冬休み中に解体、備品の移転を終え、1月9日から新園舎での運営を開始します。

なお、農業集落排水処理の供用開始までの約3ヶ月間は、汲取式の仮設便所等に対応します。



▶ 父兄製作の遊具は楽しいヨ!